

令和5年度 鳳凰高等学校自己評価表

学校経営方針	教育基本法及び学校教育法を礎に、本学園の建学の精神である「 誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育 」の実現のために学園の総力を集結し、その教育成果をもって地域社会の信頼に応え、開かれた学園として社会に貢献する。
教育目標	誠 実 (1)思いやりを持ち、他者への感謝の気持ちを忘れない生徒の育成 (2)確たる自分を持ちながら、他を認める精神を併せ持つ生徒の育成 (3)挨拶を軸とした礼儀作法の涵養による健全な心身の育成 社 会 (1)あらゆる変化にも柔軟に対応できる人材の育成 (2)価値観を認め合い、他者と協力しながら問題を解決できる生徒の育成 (3)主体性を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成 人間力 (1)最善を追い求める姿勢の育成 (2)物事の本質をとらえ、論理的に考える力の育成 (3)困難を乗り越えるため創意工夫する力の育成

*100点満点

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	評価	前年度	成果と課題
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価						
(1)	学校経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し教育実践に努める。	85	85	学校経営方針を教職員が理解・共有した上で教育を実践している。その取組と成果の生徒・保護者等への発信は学級・学年・学科などから今後も継続していく。
			教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	78	75	
(2)	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	83	83	建学の精神に基づく教育の3本柱を教職員が理解・共有し、目標に沿った指導を展開している。生徒・社会の実態を踏まえた適切な目標設定をした上で今後も教育活動を展開していく。
			教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	80	83	
(3)	学年経営の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	80	80	学年部会は定期的開催され情報共有・共通理解が図られた。あわせて5学年の主任間の共通理解にも取り組んだ。
			学年部会を月1回以上開き、目標達成状況、指導上の課題や学年行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	88	88	
(4)	学級経営の具現化	学校目標及び学年目標に沿った活気あふれる学級づくりを行う。	学校・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、意欲的な学級経営を行う。	83	83	学級の実態に応じたよりよい学級運営のあり方を常に模索しながら日々努力している。生徒の多様化や業務の変化に対応する難しさに直面する中、令和5年度は様々な角度からの研修の場を設定し研鑽に努めた。それをどのように活かしていくかの課題は残るが、生徒が更に主体的に学校生活を送れるような学級運営に努めたい。
			個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。	80	85	
			生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	83	85	
			学級通信を定期的に発行し、担任の熱意にあふれた情報発信を行う。	75	75	

(5)	学科 経営	学科目標 の具現化	学校目標及び学科目 標に沿った学科づくり を行う。	学科目標の教員・生徒への浸 透を図り、その目標達成のた めの教育活動を展開する。	80	83	学科目標の実現に向け、教 員間で共通理解の上でその 達成に向け特色ある教育活 動を展開している。進学試 験・就職試験・国家試験・各 種検定への合格に向け各学 科で創意工夫を凝らし取り組 んだ。今後は生徒募集への 尽力が必要である。
				学科会議を月1回以上開き、 目標の達成状況、指導上の課 題や学科行事等について職 員間の共通理解を図り、統一 的な指導を行う。	85	88	
2 教育活動 教育活動全般における教育的成果の評価							
(1)	教育 課程 の編 成	創意工夫 された適 切な教育 課程の実 施	学習指導要領の趣旨 が生かされた特色ある 教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々 の生徒の進路に適した教育課 程を編成する。	88	90	各学科・コースの特性にあわ せた特色ある教育課程が編 成されている。また、新たな学 習評価規定が導入され2年目 となり、適切な対応ができた。 反省点は次年度に活かして いく。
				教育課程の実効性や、教育目 標の達成状況を定期的に検 証する。	83	85	
(2)	教科 指導	わかる授 業の展開 と工夫・ 改善	創意・工夫がなされた 学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画 (シラバス)を作成し、学習目的 や学習方法を事前に生徒に 説明する。	80	80	新たな学習評価規定の導入 後、観点別評価について適 切な対応ができた。各教科担 当者は日々工夫を凝らした授 業を展開しているが、授業ア ンケートの実施だけにとどま らず、更なる授業力向上に向 けた取組に期待したい。同時 に研究授業の積極的な取組も 必要である。
				教材研究や指導力の向上に 努め、効果的な授業を行うた めに研究授業に積極的に参 観したり、自らも研究授業を実 施する。	78	80	
				わかり易い授業を推進するた めに、生徒による授業評価を 定期的に実施する。	78	83	
(3)	特別 活動	ホーム ルーム	学校・学年の教育目標 に沿った年間計画によ り、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準 備をよく行い、活発なホーム ルーム活動を実践する。	68	70	コロナ禍の制約が緩和され、 ようやく年間行事予定に基づ いた計画・実施が可能となっ た。5年度は生徒会が中心と なり、生徒全体が積極的に参 加できるよう新たな取組を導入 運営できたことは大いに評価 できる。また、諸式典におい ても従来の形式で盛大に行 うことが出来た。
		生徒会活 動の充実	生徒の自主的・自発的 な活動を推進する。	生徒の自主性を尊重し、積極 的・意欲的に活動に参加させ る。	75	78	
		学校行事 の充実	生徒の実態に即した効 果的な行事を企画運営 する。	効果的な学校行事となるよう 生徒・保護者の意見も参考に しながら常に工夫・改善を行 う。	80	78	
(4)	生徒 指導	基本的生 活習慣の 「見届ける 指導」	中途退学を未然に防ぐ ための生徒理解に務 め、基本的生活習慣の 定着や交通マナーを 遵守させる、きめ細や かな指導を行う。	欠席のない、はじめあるクラス づくりの実践。	78	75	基本的生活習慣の定着を目 指し日々の生徒指導に取り組 んでいる。服装・容儀の改善 を促す指導において、なか なかそれに応じない生徒が増 えてきているのも実情である が、粘り強い指導を続けてい く。挨拶においては10箇条の 復唱を復活させたため、もっ と活気のある雰囲気を構築し たい。生徒が健全・安全で充 実した学校生活を送ることで 中途退学の減少につながれば
				服装・容儀の徹底指導。 (特に頭髮・スカート丈)	80	80	
				挨拶の励行・時間厳守の浸 透。 (始業時間に授業がスタート)	83	88	
				交通安全指導の徹底 (違反者・事故者ゼロを目標)	78	78	
				教育相談・健康相談・悩みの 相談など多角的な生徒理解の 推進	90	90	

(5)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	進路実現に向け、模擬試験や検定試験などを計画的に行う。	83	80	模試や検定など計画的に実施出来たと言える。三者面談などは十分な時間の確保は難しかったが、工夫して取り組んだ。今後は進路実現に向け更なる取組をしていきたい。
				進路実現に向け、講演会や三者面談・卒業生との交流会などを行う。	78	73	
				職業観・職業意識を醸成するための効果的な現場実習を体験させる。	73	70	
(6)	人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	85	83	日常生活の中で思いやりや他者との協力の大切さを理解している生徒がほとんどである。しかし、発達段階の途中であるが故、相手の気持ちを慮るまでに至れない生徒がいるのも事実である。今後も粘り強く対応していく。
(7)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援する。	75	80	部活動への参加の推奨はしているが、入部率としては決して高いとは言えない現状である。今後入部のための具体的な取組を検討できれば良いと考える。部活動生は、人間形成、技術力向上等に向け一生懸命に取り組んだ。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション能力などのたくましい人間力を育む。	78	80	
(8)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア精神の高揚を図る。	ボランティア情報を提供し、積極的・主体的な参加を奨励する。	75	73	年間を通じてボランティア活動の情報や案内が少なく、積極的な参加は一部にとどまっている。日ごろの清掃時間などを通じて奉仕の心を育成したい。
				施設訪問や環境美化など、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	80	80	
(9)	資格取得	各種資格取得奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	73	75	学科の取り組みや個人による格差が大きい。積極的な呼びかけや奨励が必要である。

3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価

(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	90	88	各分掌業務は各部署長を中心に適切に処理されている。定期的な会議はもちろん、アプリ「teams」も活用しながら相互連携をとっている。
				校務全体の円滑な推進のため各分掌間・学年・学科間の相互連携を図る。	85	83	
				分掌ごとの業務記録、資料の保存に努める。	83	83	
(2)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究などを行う。	生徒の実態や本校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	85	85	全教職員による定期的な校内研修を計画的に実施できた。学校戦略支援室を中心とし教職員研修計画に新任・中堅・ベテランそれぞれキャリアに応じた具体的な取組を計画し、実践できた。研究授業においては全教科で行う必要がある。
				指導実践力の向上を図るため研究授業及びその授業研究を各教科とも年1回以上行う。	63	63	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	70	73	
(3)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター、各種教育研究会などの研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会・各教科教育研究会で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。	78	83	研修係より都度積極的な研修の案内を行った。教員の研修参加への意識は確実に向上している。

4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価								
(1)	学校環境整備	快適な生活環境の整備	日々の清掃活動を充実させ、美化意識を高めるとともに、節電・節水など省エネ運動にも取り組む。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	88	90	生徒の清掃への取組について個人格差が大きい。毎年の課題であるが、教職員が率先垂範の姿勢で生徒と共に取組む雰囲気作りを今年も継続していく必要がある。	
				特別な清掃活動(大掃除・愛校作業など)を月1回以上実施する。	83	85		
				省エネ運動を推進し、電気・水道使用料を前年比減に努める。	85	88		
(2)	施設設備の管理	有効活用と安全管理	施設・設備の有効活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備の保全に努める。	83	85	毎週末の査察において、全教職員で施設・設備の安全点検を実施している。不備や危険箇所があった場合は速やかな報告が求められる。	
				日常の教育活動においては、施設・設備の安全運用を最優先とする。	88	90		
(3)	情報インフラの設備の充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り効率的な事務作業を行う。	90	93	情報管理部が中心となって、教務部と連携しながら成績処理や校務処理について毎年改善されている。同時に、都度教職員間での研修や共通理解が求められる。	
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。諸帳簿類の保管管理体制を整え、適切に運用する。	90	90		
5 開かれた学校づくり								
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年1回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	80	75	今年度は4年ぶりにPTA総会や地区PTAがほぼ通常の流れで開催された。参加率だけで見た場合、県内地方や県外開催の地区PTAにおいては参加率が低かったため、今後は実施する目的をご理解いただき、その向上に努める必要がある。ただオンラインでの面談も可能なため距離的に参加が難しい家庭においては工夫も必要。	
				PTA総会・地区PTA・保護者会などを活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	75	68		
		PTA活動の充実		支援と活性化を積極的に図る。	自主的なPTA活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	73		65
					PTA関係の会議への参加率向上に努める。	63		63
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	関係中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	65	68	「南さつま飛び立て高校生事業」や学科、部活動単位で積極的に地域と連携ができた。中学校行事への職員や生徒派遣なども充実していた。	
				地域などからの苦情に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善をすみやかに行う。	70	70		
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。	学校情報の積極的発信に努める。	65	68	広報部・情報管理部を中心に学校や生徒の様子をリアルタイムに発信できた。各部署からの発信が増せば更に閲覧も広がると期待する。	

【総評】

【総評】

評価の結果 (課題と問題点)	(1) 学校経営全般について 本校の学校経営方針や努力目標を確実に実践するだけでなく、世の中の動きや時代の流れに合った学校経営が求められる。本校においては、近年の教職員研修の取り組みは目覚ましく、教職員の自己研鑽の機会は豊富である。今後は、如何に教育活動として活かされ展開していくかが引き続きの課題であり、目標である。 (2) 教育活動全般について 学習評価の規定が変更され2年目。昨年度に比べ、教科指導や学習評価の工夫が見られ、定着しつつある。今後も定着を固定化せず、より細部まで評価できる体制を作り上げていくことも重要な課題である。 (3) 組織運営全般について クラス、学年、学科、各校務分掌と様々な組織が存在する中、全般的には各教職員が責任を持って業務遂行している。今後も各組織内が風通し良く、スムーズな運営が行われることと各組織間の連携が更に教育活動の充実に繋がると考える。 (4) 教育環境全般について 生徒が安心して学校生活を送る上での環境作りは、ここ数年取り組んでいる。今後も必要に応じて、改修や新設等を行う必要がある。同時に、生徒・教職員が長期的に故障や修繕のない各施設・設備の維持と利用ができるよう徹底した指導を行う必要がある。 (5) 開かれた学校づくりについて 引き続き、ホームページや各媒体を利用して、本校の動きについてリアルタイムに発信(最新・更新)できるよう努めている。また、対応する教職員も充実している。各媒体に頼るだけでなく、年間の各行事を通じて、中学生や学校周辺の方への参加も必要。
今後の改善策	(1)学校経営全般について 常に工夫・改善に努める。そのためには教職員間の情報共有が必要で、現状を十分理解し、内容を精査する中で最も適した学校経営が行えるよう取り組む。 (2)教育活動全般について 学習活動の工夫・改善はもちろんであるが、学習に限定することなく、人間教育(躰教育)の充実を図りたい。高校卒業後は、進学および就職と多岐にわたる。改めて、様々な場面で適切は判断・対応ができるよう、規範意識の向上につながる指導を行いたい。 (3)組織運営について 教職員が各持ち場での職責を果たすためには、意識の格差および取り組みの格差が出ないことが大切である。継続した働きかけと職員研修の充実を図れるよう努める。 (4)教育環境全般について 上記で示すように、施設・設備を大切に利用し、維持に努める。教職員の取り組みとして、毎週末の「査察(点検)」を細部まで実施する。また、利用の在り方等、生徒・教職員の改めて投げかけ、意識向上と具体的な実践できるよう努める。 (5)開かれた学校づくりについて 今後は、発信内容や発信時間等を精査して、一方的な発信にならないよう努める。また、ネット環境だけでなく、校内の各イベントに中学生や保護者、市民の方に参加していただいたり、外部イベント等にも積極的に参加するよう、今まで以上に努める。